

二〇二五年度

第一回

国語入試問題

帝京高等学校

※解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
※特に指示がない限り、句読点も一字に
数えなさい。

【一】 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

自由には責任がともなう、と言う人がいる。これは、二つのことが、^aコンセンしているような気がする。権限には

A がともない、 B には危険がともなう、というのが本当ではないだろうか。

無限定の責任というものはない。なにかの立場にあるとき、その立場に応じて、責任というものはある。

たとえば、きみたちの先生についてなら、先生であるかぎりでの、責任がある。そして、きみたちにしても、中学生であるからには、中学生という立場に応じて、そのかぎりでの責任はある。しかし、それが自由との関係で生まれているとは、ぼくは考えない。

① ^{いつだつ} そうした立場から逸脱することも、ときにはありうる。そのかわり、そのぶんだけ、危険は大きくなる。② ^{安全を保証された自由、なんてものはない。}

ひとりで、山へ行ったりするのは、自由でよいものだ。そのかわり、それにともなう危険を引きうけないわけにはいかない。すべてを安全と考えていては、自由はなくなってしまうが、かぎりなく自由を求めているは、危険も大きくなる。

高校進学からドロップアウトするのも、自由だろうが、それにともなう人生の危険を引きうける覚悟だけはしておいたほうがよい。世間のしきたりに反発するのは自由だが、風あたりの強くなる危険を承知でやるものだ。

多少の危険があっても、自由を求めるのは当然だろう。車が来ない横断歩道で、信号なんか気にしなくても、まず大丈夫だ。しかし、もしかして突然に、車がとびだしてきたときの危険は心得ておいたがよい。これが、車のほうになったら、自分ではなくて相手を傷つける側だから、運転者の立場から、信号を守る責任がある。歩行者の側にしたって、あまり勝手なことをすると、それを気にした車が事故を起こすこともあるから、責任がないでもないが、主要な面は、責任よりも危険のほうにある。

じつのところ、ぼくは、多少の危険はあっても、自由が好きだ。山を歩くにしても、安全な道路などよりも、^{やぶ}藪をくぐって道のないところを行くのを好む。そのかわり、イバラに^ぶサされたり、がけに落ちたりする危険がある。マムシにも気

をつけねばならない。若いときは、体の自由がきいたので、そうした危険を好んだものだが、このごろでは、だんだんと安全な道を歩くようになった。そのかわり、自由がなくて、おもしろくない。

旅行にしても、若いころだと、計画などたてないのを好んだ。そのかわり、金かなくなつて、駅のベンチで寝たり、汽車の席がなくて、立っていかねばならなかつたりした。こちらも、年をとつたために、宿を予約したり、指定券を買つたりせねばならなくなつた。それは、^{*}国鉄に^③自分の未来を売りわたしたみたいで、ⁱぼくにはひどく^cクツジヨクの思いがするのだけだ。

ただし、危険を覚悟で自由を求めるのは、個人の旅の場合である。これが、団体旅行のリーダーだつたりすると、リーダーとしての責任が発生する。その場合には、計画をたて、宿や切符を手配せねばならない。こちらのほうは、責任である。

それでもぼくは、きみたちが、まったく個人に属する^④自分自身の進路にまで、とかく安全の保証された指定券を買いたがる、といった感想を持っている。若い間は、もう少しは、危険を覚悟の^dボウケンをして、自由を求めてもよさそう^⑤に思う。失敗するかもわからず、自分の判断でことを処理せねばならない、自由の領域を、もう少しは求めてもよさそうに思う。

もちろん、自由を求めるからには、いくぶんかは、安全を断念せねばならない。危険のない自由なんてない。安全を求めるのなら、^⑥管理に甘んじていることだ。自由であつて、しかも安全というのでは、あつかましい。

他人をたよりにせず、自分だけをたよりにするというのが自由だから、それほど安全の保証されるわけがない。

このことは、規則の問題とは、いちおう関係ない。このごろは、安全保障のための管理規則が多すぎるように思う。

木のぼりをすれば、落ちて足を折る危険がある。そうした危険を承知での木のぼりの自由が、あつたほうがよいと思う。危険防止から禁止がふえて、自由が少なくなっているのは、つまらない。

もつとも、昔だつて、禁止されていた川へ泳ぎに行つたものだ。溺れる危険があつたのだが、それが子どもにとつての自由だつた。だから、規則が禁止していても、それを破つて危険な領域に近づくのが、自由というものかもしれない。

そのかわり、危険は、きみが引きうけねばならない。

他人にめいわくをかけずに生きる、ということが言われる。そんなことが、本当にできるのだろうか。

きみたちが、志望校に入ったとすれば、かわりにだれかが落ちる。彼にとって、きみはめいわくな存在かもしれない。就職するときだって、[※]公団住宅に入るときだって、他人にめいわくをかけているはずだ。

べつに、そんなに^⑥キョウゴウする場合でなくても、親子だって、おたがい、めいわくをかけあっている。友人だって、そうだ。人間が、他人と関係を持つときに、その他人に、^⑦まったくめいわくをかけないなんて、考えられない。

だれにもめいわくをかけてない、なんていばっている人間は、^⑧そんなことを言われるだけでも、めいわく^⑨至極だ。やはり、おたがい、めいわくをかけあっていると思ひながら、生きて行くほうがよい。

—— 中 略 ——

他人と関係を多くとり結び、そのことによって、おたがい、めいわくをかけあう機会を持った上で、あちらこちらとぶつかりながら生きるほうが、人間にとっての自由だと思う。

授業中に質問をして、先生の予定を狂わしたら、予定どおりのつもりでいた先生には、めいわくかもしれない。しかし、そのことで、授業に予定以外のできごとが加わるわけだから、これは授業にとつても、よいことだ。

クラスみんなが、ある方向でまとまりかけたところへ、別の意見をさしはさむと、せっかく方向がきまりかけたのに、と思う人にとっては、めいわくかもしれない。しかし、そんなに単純にまとまってしまわないほうが、むしろよいことであつて、そうしたブレーキのかかるのは、クラスにとつてもよいことだ。

さまさまの人間がいて、さまさまの関係をとり結び、そのなかで、おたがい、めいわくをかけあうというものも、考えようによつては、この人間の社会にとって、よいことである。世間などにきがねして、みんなが小さくなつていたりしては、世間のほうがつまらなくなる。

それでも、他人にめいわくをかける場というのは、他人から悪口を言われる場でもある、ということとは心しておいたがよい。他人から悪く言われぬようにと、ひっこみ思案で小さくなっているほうが、危険は少なそうに見える。もっとも、たいていは、あの人は陰気な人などと、そのこと自体を悪く言われたりするものだが。

しかし、人間にとって、自由に危険はつきものである。他人にめいわくをかけ、そのことによって、他人に悪く言われる危険を覚悟しなくては、人間社会ではなにごとでもない。

むしろ大事なことは、自分が他人にめいわくをかけていることを、いくらかうしろめたく、いつでもジカクf~~~~~していることである。だれにもめいわくをかけてないと、胸を張ることはなくて、めいわくをかけた相手の心を思うことである。

そして、できるだけ多くの人間と関係を取り結び、そのことによって、おたがいが、めいわくをかけあつて生きる、そうした社会を作りたいものだ。

(森 毅『まちがったっていいじゃないか』ちくま文庫)

※ i 国鉄……日本国有鉄道。現在の J R 各社が分割民営化される以前の呼び方。

※ ii 公団住宅……当時の日本住宅公団が供給した住宅のこと。

問 1 本文中の波線部 a～f について、各々のカタカナを漢字に直しなさい。

問 2 A、B に入れるのにふさわしい表現を、本文中の言葉を用い、各々漢字二文字で答えなさい。

問 3 傍線部①とありますが、どのようなことを述べているのですか。説明しなさい。

問 4 傍線部②について、どのようなことを述べているのですか。次に示した説明文の空欄に、本文中の表現を七文字で入れて、説明文を完成しなさい。

に反発しても、危険な目に一切あわず、限りなく自由である状態のこと

問5

傍線部③とありますが、どのようなことを述べているのですか。説明としてふさわしい物を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 旅をする際にしっかりと事前に計画を立てることで、先の予定がすべて埋まり、安心して旅を続ける楽しみが大きくなったということ

イ 著者も年を取り、体の自由がきかなくなってきたため、旅をする際に先々の予定を立ててもその通りにはならない事が増えて来てしまったということ

ウ 宿を予約したり、指定券を購入することで、旅をする前から余計な出費がかさんでしまい、思う存分旅を楽しむ事が出来ないということ

エ 旅をする際に宿を予約したり、指定券を買うようになった事で、旅が計画通り進めざるを得なくなり、自由気ままな旅が出来なくなったということ

オ 若い頃は将来に希望があり、勝手気ままに振る舞う事も出来たのだが、ある程度の年齢に達すると新しい事に挑戦しようと言う気力が出来て来ないということ

問 6

傍線部④とありますが、どのようなことを述べているのですか。説明としてふさわしい物を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 進路決定の際、二股をかけておく事で、どちらかの進路は保証されると考えたということ

イ 進路決定の際、若い頃は無計画に挑戦する事を恐れるあまり、何も出来ずに苦しんだということ

ウ 進路決定の際、旅に出る事で見聞を広める事となり、大きな視野を持ち自分の進路を選択するようになるということ

エ 進路決定の際、周囲の意見に流されてしまい、本来の自分の目標とは異なる選択をしてしまうということ

オ 進路決定の際、目標に挑戦する事なく、安全に決定する事が出来る進路を妥協して決めてしまうということ

問 7

傍線部⑤について、ここでの「自由」とはどのようなものだと考えられますか。ふさわしい物を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 年齢が若いうちに何事も経験する自由

イ 自分の進路について常に挑戦を続ける自由

ウ 指定券ばかり買わず気ままに旅をする自由

エ 危険を冒してでも自らのわがままを押し通す自由

オ リーダーにはならず、気楽な人づき合いをする自由

問 8

次に示したア～オの本文の内容について、傍線部⑥と同じ意味に該当する物には○を、それ以外には×を解答用紙に記入しなさい。

- ア 旅の際に指定券を買うこと
- イ 山に行く際に一人で行くこと
- ウ 高校生活をドロップアウトすること
- エ 車が来ない横断歩道で信号を気にしないこと
- オ 旅行の際にあらかじめ宿を予約すること

問 9

傍線部⑦とありますが、なぜ著者は「めいわく」だと考えているのですか。説明としてふさわしい物を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 誰にもめいわくをかけていないと主張する人間は、威張ってばかりで周りの人を不快にするから
- イ 誰にもめいわくをかけていないと主張する人間は、自己中心的で周囲に対する思いやりが欠けているから
- ウ 誰にもめいわくをかけていないと主張する人間は、自分が周囲にめいわくをかけているという自覚がないから
- エ 人はどんな時でも自分の発言には責任を持つべきであり、軽率な発言が周囲への不信感につながるから
- オ ひとにめいわくをかけているか否かの検証がなされていないにも関わらず、めいわくをかけていないと述べる事は根拠がないから

【二】 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

著作権の都合上、省略いたします。

著作権の都合上、省略いたします。

著作権の都合上、省略いたします。

著作権の都合上、省略いたします。

著作権の都合上、省略いたします。

著作権の都合上、省略いたします。

受験番号

氏名

得点

【二】

問 1

d	a
e	b
f	c
	され

問 2

A
B

問 3

問 4

問 5

問 6

問 7

問 8

ア

イ

ウ

エ

オ

問 9

（【二】の解答欄は裏面にあります）

問
1

①
②
③
④
⑤

問
2

①
②
③
④
⑤

問
3

[illegible]

問
4

ア
イ
ウ

問
5

Journal Pre-proof

問
6

2	1

問
7

[illegible]

問
8

受験番号

氏名

得点

【二】問 1

d	a
冒険	混線
e	b
競合	刺され
f	c
自覚	屈辱

②×6

問 2

A
責
任
B
自
由

②×2

問 3

人間は何かの立場にある時、その立場に応じて責任があるが、その立場での責任を果たさずに、自由に行動すること。

④

問 4

世
間
の
し
き
た
り

④

問 5

エ

④

問 6

オ

④

問 7

イ

④

問 8

ア
○
イ
×
ウ
×
エ
×
オ
○

②×5

問 9

ウ

④

（【二】の解答欄は裏面にあります）

50

【二】問 1

①	功労者
②	幼稚
③	構想
④	君臨
⑤	屈服

②×5

問 2

①	ついう
②	はいじょ
③	けんしんてき
④	くんしょう
⑤	かんしゅう

②×5

問 3

2	1
正	行
々	儀
々	の
堂	悪
々	い
戦	戦
う	法
こ	法
と	

②×2

問 4

ア
a
イ
d
ウ
b

②×3

問 5

後白河上皇から官位、官職をもらってしまったこと。

④

問 6

2	1
土地	官職

④×2

問 7

で	将
討	軍
ち	が
死	見
に	て
を	い
遂	る
げ	と
る	こ
	ろ

④

問 8

自
分
と
立
場

④

50